

イオンとGAP

2017/9/26

イオンリテール株式会社 グループ品質管理部長

GFSI理事 兼 日本ローカルグループ議長

岸克樹

イオンとGFSI

1980年代～
自主基準による差別化

2000年～
食品安全のグローバル化

イオンの動向

- ・イオン品質基準の制定
- ・生活品質科学研究所設立
- ・工場調査、PL診断の実施
- ・アレルギー、放射能等で自主基準を設定



- ・GFSIへ参画
- ・G-GAPをベースとしたイオンAQを
トップバリュグリーンアイに適用
- ・イオンアグリによるG-GAP取得
- ・タスマニア農場でのSQF取得
- ・イオンフードサプライによるSQF取得

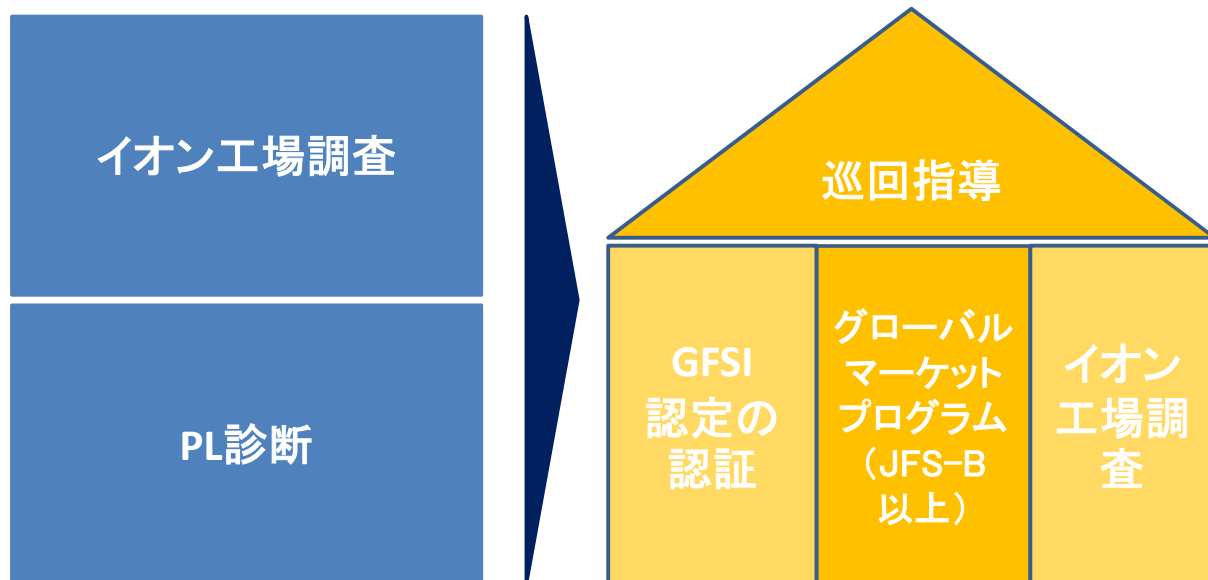
GFSIの考え方



GFSI理事企業



加工PB食品安全管理のGFSI化



イオンアグリ創造(株)



21農場
約320ha

※2016年6月現在



イオン「持続可能な調達方針」

「イオン持続可能な調達方針」 「持続可能な調達2020年目標」を策定

イオンはこのたび、農産物、畜産物、水産物、紙・パルプ・木材、パーム油について「イオン持続可能な調達方針」、および「2020年の調達目標」を策定しました。グローバル基準に基づいて生産された商品の調達を推進することにより、真に「安全・安心」な商品をお客さまにご提供し続けるとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、イオンはグループ一体となって積極的にCSR活動を推進し、企業成長と社会の発展を両立させる「サステナブル経営」を実現するため、2011年に「イオンサステナビリティ基本方針」を制定しました。2014年には「サステナブル経営」をさらに前進させるべく「ビッグチャレンジ2020」を掲げ、CSR活動と事業活動が一体となった経営の実現をめざし、さまざまな取り組みを進めています。

このたび、「ビッグチャレンジ2020」にも掲げる「サプライチェーンにおける持続可能な調達ガイドライン制定」に基づき、下記の通り、調達方針と目標を定めました。

これらの取り組みは、2015年に国際連合が採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に含まれる持続可能な開発目標（SDGs）に適用のもでもあり、イオンは事業活動を通じて社会課題の解決に向けて貢献してまいります。

記

【イオン持続可能な調達方針・2020年目標】

対象	イオン持続可能な調達方針	持続可能な調達2020年目標
農産物	自然・生態系・社会と調和のとれた持続可能な農産物の調達に努めます。自らも野菜を栽培することで安全でおいしい野菜を提供し、安心してらせる食の未来の創造に貢献します。	・プライベートブランドは、GFSI [®] ベースの適正農業規範(GAP)管理の100%実施をめざす ・オーガニック農産物売上構成比5%をめざす